

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和8年1月29日）

1 主な報告等

(1) 令和8年「はたちの集い」関連式典への対応について

委員から、ここ数年はかつての「荒れる成人式」のようなことが起きなくなったのは、県警による丁寧かつ細やかな対策が功を奏したものだと思う。県警暴走族取締隊が発信したSNS動画は斬新に感じたが、反響も大きく、新成人はもちろんのこと、県民にも実態を知ってもらえたことと思う。ほかにも、暴走をしそうな新成人に直接電話をして理解を求める対策を講じたことは効果的な取組だ。人は他者から価値のある存在と認められることにより、意識も良い方向に変化するものだ。かつて公安委員会に何度も苦情を申し出ていた者が、手続にのっとり正式に回答を受け、自分の声が届いたということに心が動かされたということを知ったことがある。このような声かけは、今後の未然防止にもつながると思うので、継続して取り組んでほしい。今の新成人の世代は、集団で行動する年齢期をコロナ禍で過ごし、人間関係も以前とは異なっていることも落ち着いた要因とも考えられる。これからも、時代に合わせた事前対策に取り組んでほしい旨の発言があった。

(2) 県警察スクールサポーターの活動状況について

委員から、知人にスクールサポーターをしている者がいるが、会うたびに生徒たちとの交流を熱く語るほど、高いモチベーションを維持して取り組んでいる様子が見えてきた。少年の立ち直りに何が有効なのかは少年により異なることから、様々な人が携わり、色んな支援をしていくことが必要だ。スクールサポーターは非常によい制度だ。人員の増加など体制の強化も検討してほしい。今回、支援を受けた生徒がスクールサポーターへお礼の手紙を送ってくれたということは、それだけ担当したスクールサポーターが生徒に愛情を注いで根気強く向き合ったからだと思う。今後とも学校等の教育機関と連携して、学校における少年の問題行動や児童生徒の安全確保等に取り組んでほしい旨の発言があった。

(3) 令和7年中の110番受理状況について

委員から、先日、物件事象を目撃して110番通報した。当事者ではなくても気が動転してしまっただが、通報を受けた警察官が冷静に対応してくれたので、落ち着きを取り戻した。中には通報者が慌てて「しまくとぅば」での訴えや、外国人からの通報では言葉の壁もあるなど、受理する警察官も大変なことと思う。県内の110番通報件数は九州管区内でも2番目に多いと聞いている。それだけ警察が信頼されているとも言えるのであろうが、約3割が緊急対応を必要としない通報が占めていることには対策が必要だ。本来急を要する事件・事故への対応が遅れ、県民の安全安心確保に支障を生じてしまうおそれもある。通報状況について様々な分析をして、緊急性のない要望、相談、苦情等は#9110へ通報することを呼びかけるなど、今すぐ警察官に駆けつけてもらいたい人のためにも、110番の適正利用について広報を強化してほしい旨の発言があった。

(4) 福岡県警、熊本県警及び沖縄県警の3県合同捜査本部による組織的な保険金詐欺事件並びに弁護士法違反被疑事件の検挙について

委員から、昨今のトクリュウによる事案のように、最近の犯罪には県境や国境を超えない時代になっている。警察も他県と合同捜査をすることが重要だ。県の垣根を越えて、融通無碍に協力し合えるチームを築いてほしい。本件では、交通事故の当事者は事件に気づくことなく利用されてしまっている。当事者には実害はないものの、人の不運につけこんで利益を得ようとする強欲な事件については、今後とも厳しく取り締まってほしい旨の発言があった。

(5) その他

警察本部から、110番は警察活動の基本かつ県民からの急訴事案を受けるためのツールであり、対応スピードを落とさずに対応しなければならない。通報の受理から指令には、通報者から現場の状況をうまく引き出す対話の技術と、その情報を部内に的確に指令する技術が求められる。広域技能指導官の活用や熟練した職員による指導を通じて県警職員のスキルアップを図っていきたい。他方で、緊急性のない110番通報はどこの県でも大きな課題となっている。急訴ではない要望、相談等は「110番の日」などを通じて#9110に通報していただくよう広報しているが、さらに認知度を上げ、緊急の事件・事故への対応スピードをより高めて行きたい旨の発言があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について
- ・ 監察関係報告

(2) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について